



世界の現実と未来という選択

クロダインターナショナルコンサルティング

黒田 毅

世界はその変化を模索するものである。現状における留意点は、新しい技術文明という現実と新しい世界の模索が存在するのである。これらは未来における変化を予測させるものである。

これらへの対処は、自己現実の構築を要求するものである。これら変化は明らかにアングロサクソンミッションであり、他方における現実はすべての人種の融和を提案しなくてはいけない。

軍産複合体が求める第三次世界大戦は、これらへの対峙を自己軍事力と新たな軍事同盟の構築において求められる。

世界への新しい世界ビジョンの提示は、官僚組織における新しい未来の提案を実現できるものである。これらは他方において計画が存在し、しかしながら、自己において新たな世界を提案することは可能である。

産業は新たな現実へ対峙する。これらは既存産業が政治のプレゼンスにおいて、次世代の技術への転換と新たな社会インフラの整備における国家転換を必要とする。

財政におけるその破綻的な現実、断固としてその健全化を実現しなくてはいけない。健全財政への回帰は、政治におけるレーガノミックスと同等の対応を要求される。

これら変化への対応は、新たな外交展開において、国家が世界への新たなプレゼンス構築を提案できるものである。これらは自由主義陣営とロシア、中国の同盟が、対立する中、第3極の形成を対立から融和において提案できるのである。

変化を恐れるのではなく、自らが変化を行うことは、世界へ未来を与えることなのである。